IPEJ-KNK

きんきしぶだより

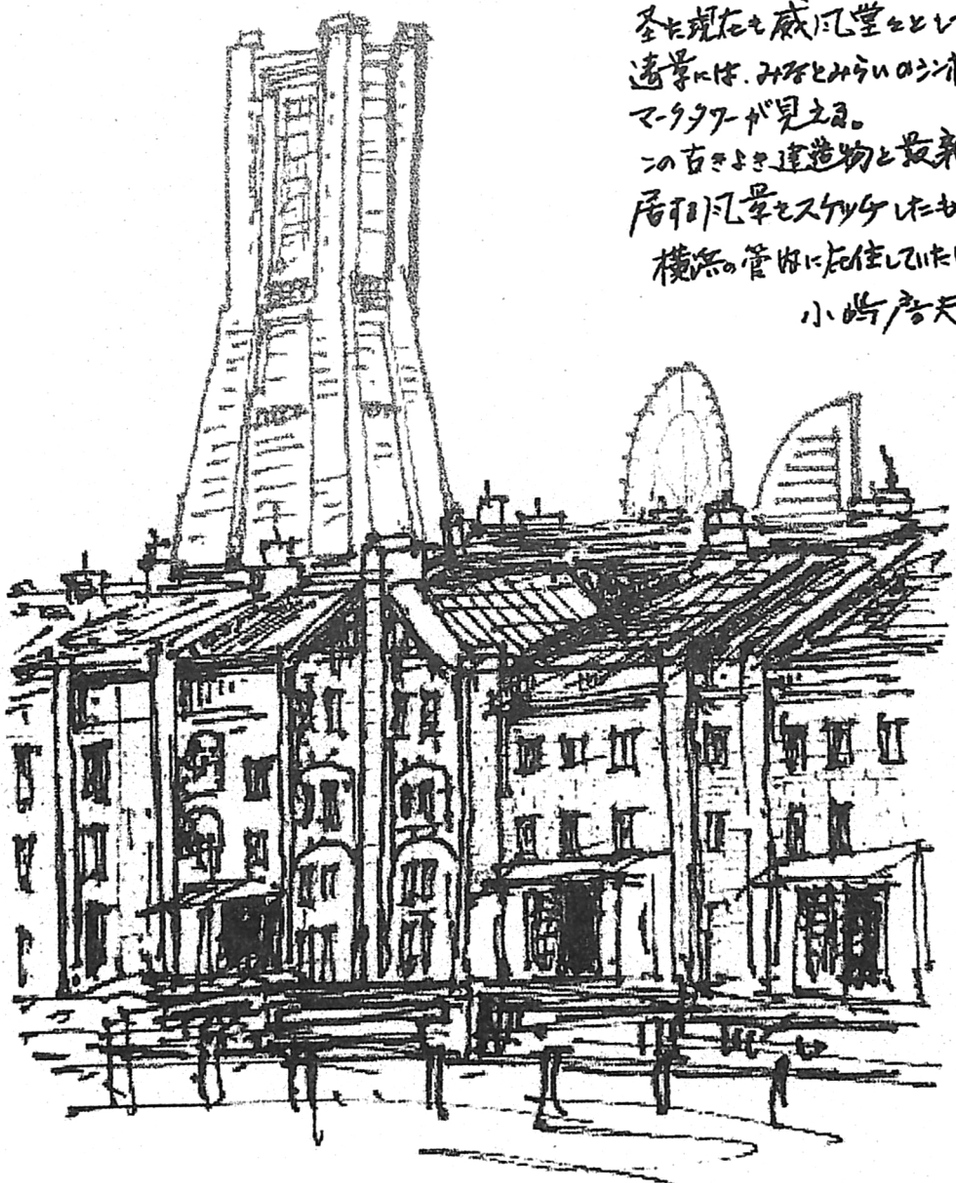
(社)日本技術士会
近畿支部

No 57
2001-02-15

IPEJ-KNK

明治から大正の時代、この赤レンガ倉庫群は、横浜港から陸揚げされる物資の一時貯蔵庫として活躍した。頑丈な建築は100年余を経た現在も威風堂々としている。
遠景には、みなとみらいのシンボルであるランドマークタワーが見える。
この古きよき建造物と最新の建築が同居する風景をスケッチしたものです。
横浜の管内に在住していた頃の作品です。

小嶋啓夫(全会員)



横浜地に残る
赤レンガ倉庫群

F. Kojima

巻頭言

現代文明を反省する力の養成(続)

支部長　加藤　薫（農業）

百人一首に、

あひみてののちの心にくらぶれば昔はものを思はざりけり

の一首がある。これは相聞歌であるが、無粋ながらあえて時流に合わせて読み替えてみよう。

人類が宇宙から地球を常時眺める時勢になってしまった。つい幾昔までは、恋患いならともかく、宇宙船地球号の運命などという余計なことを思い煩わずに済ませることができたものをとなる。

急に話題を技術士に結び付けてしまうが、科学技術が見直しの矢面に立っている以上、技術士は感度よく対応するべきである。

中でも前世紀後半を通じて、科学技術開発、展開に精根を傾けてきた世代は、今後無傷で今世紀を渡ることができるとは到底思えない。たとえ技術士試験に合格し、国、学会、業界から表彰されたことがあってさえも、それらは過去の栄光・栄誉であって、今後はかって無かったような批判に曝され、踏み合にされることに甘んじる立場になるかもしれない。しかしここで早々にあるいは無責任にも引退などと言うよりは、着手の批判を待たないで、自分の手掛けた分野の速やかな見直しに手を貸すべきだと言いたい。

この際、後進する立場の、若手は社会に現存する技術とその応用を金科玉条と心得ないでもらいたいものである。宇宙から見る神のような目で見れば、先輩の足跡、成果の中から致命的に重大な過ちや欠陥を多々発見できるだろう。それを見直す側に立ってもらいたい。

それとも万が一であるが、科学技術評価の基準が急速に変わったことに疑念があるだろうか。私ども技術士は大抵は企業絡みの立場にあるので、理念と現実とを同調させ難いかも知れない。それならばそれで、直ちに研修の場を設けてでも具体的に討議を開始しなければならないだろう。

どの部門の技術士グループも、支部をそういう場のセンターと見て活用して頂きたい。21 世紀初頭に際して、技術士が見識を示すためにやりごたえ十分の作業と思うが如何？（2001 年正月）

目　　次

巻頭言：現代文明を反省する力の養成（続）	支部長　加藤　薫	（農業）	2頁
理事会報告・支部役員会議事録			3～4
海外技術協力実務講演からのトピックス	長　惇夫	（機械）	5
支部長会議報告			6～　7
報告：フォーラム「技術士の災害対応について」	長　惇夫	（機械）	8～10
第5回震災技術展展示会場の状況	郡　和久	（建設）	11
コラム：エスカレータ	長　惇夫	（機械）	11
知的所有権について（その1）	水田　一孝	（化学）	12～14
繊維技術物語（第7話）	谷本　義雄	（繊維）	15
イスラエル見聞記（その3）	稲本　渡	（化学）	16～19
支部会員略式名簿の企て	稲本　渡	（化学）	20
三面記事：名簿難産裏の底	前川　忠敏	（機械）	21～22
部会予告・報告			23～27
原稿募集・編集後記・広告			28